

AD ALTIORA SEMPER

神戸市外国語大学学術情報センターだより 第35号

変革信仰と大学と図書館

玉井 健

昨年度在外研究で訪れた米国を見て思うのは、良くも悪くも、結果重視の躊躇ない行動の早さと変革信仰。自在な変革の背景には、未知の可能性に対して常にオープンであろうという態度があって、これはよい意味で、この社会を前に推し進めて来た無形の財産として共有されているようです。大学はそのよい例で、門は社会の人的可能性に広く開かれ、エネルギーさえあれば、それなりに勉強や研究の道に入っていけるシステムが用意されています。大学近くの本屋の店番男がブレード頭の、手首まで刺青だらけ。この人大丈夫かいなと思いつつ手にした本を差し出すと、「お、これはオモロイ本やないの（関西弁をしゃべるはずはないので、そういうイメージで）」聞くと、昔はギャングで、今は教育学専攻の博士課程の学生って言う。また、図書館で掃除をしていたアジア系の学生にパソコン操作について質問したら、たどたどしい英語で一生懸命に教えてくれたり。あの英語で勉強は大変だろうと思いつつ、そんな学生にも経験を積ませ、学費を稼ぐチャンスを与えている図書館に妙に感心したりしました。

学習と研究を柱とする大学というシステムは、社会の様々な人間の持ち込む有形無形のエネルギーを取り込んで、交ぜ合わせ、知の創造という文脈の中で多少の酵母菌を加えて有機的な反応を引き起こし、やがて芳醇な風味を持つ酒に変えていくような、一種の酒蔵のようなものかもしれません。とすれば学びや研究は、教員や図書館や施設という酒樽の中の醗酵過程ということになるでしょうか。

今は酒蔵自体が猛烈な情報革新の波にさらされて、急速な変革を迫られている時代です。より豊かな発酵過程を求めらる中で、アメリカの大学は醸造方法自体をも変えつつあるようでした。今回の滞在で驚いたのは、教育学習環境のネットワーク化による授業形態の変化です。以

前の留学は20年前で、日本からペーパー一つ送るにも郵送していた時代ですので、今回目撃した変化は衝撃的でした。ネットワーク化された教育・学習環境では、教材の配信は言うに及ばず、課題の提出、ディスカッション、クラスメートや教員とのやりとり、成績評価などが全て一つのネットワーク上で行われます。例えば木曜日の晩に授業が終わると、論文3本程度をリーディング課題として、そのコメントを日曜日の昼12時までに授業ウェブサイトへ書き込みます。皆のコメントがウェブ上に載った時点で、月曜日の晩までに3名のクラスメートの意見にコメントせよという課題が出ていて、またそれに対して書き込みをします。すると火曜日の午前中に教員が皆の議論に対してフィードバックを返すので、学生は木曜の朝までにまた意見を書き込むという具合。とにかく一週間一時も気が抜けないのですが、授業の外で学びはグングン深められていきます。学びという営みそのものがネットワークという空間に移された事で、教室はもはや授業のほんの一部でしかなくなり、教育の形態が大きく変わってしまったのです。課題投稿の時間が設定されているので、書き込みが1秒遅れるとアウト。気がつくウェブ上から窓が消えてしまって真っ青、ってこともありました。悪く言えば学生の勉強生活はネット



ワークでしっかりと管理されてしまっているのですが、学生は教室外で理解を交換し合い、テーマについての理解を加速していきます。必然的に図書館との関係も変わってきます。ウェブ上の授業サイトには課題論文のpdfがあるし、図書館の教員サイトに飛ぶと、教員による各分野のお薦め論文や参考資料がpdfで挙げられているので、必要に応じてそこでダウンロードします。許された短い時間に多様な課題をこなすには、素早く文献にアクセスできる環境は不可欠となります。

また、紙媒体からデジタルへの移行も進んでいました。僕は紙派でしたので、授業が終わると図書館で授業サイトからリーディング課題をプリントアウトするのが常でしたが、クラスの半分くらいは、全くペーパーを持っていませんでした。印刷代を節約して、手持ちのノートパソコンか図書館のデスクトップの大きな画面で読むのです。留学生は長期の休みになると寮の部屋を空けねばならないので、教科書を含めて荷物を持っていると移動に差し障るというのです。部屋に本は一冊もないと豪語する学生もいました。図書館で全て電子化して、それをウェブ上にある自分のメモリに保存して読んでいたのです。図書館のネット上にU-driveという個人メモリをもらえるので、ネットにアクセスすれば資料や課題はいつでも取り出せるのです。街も大学も無線LANはフリーですので、時と場所を選ばず、資料を持ち歩くこともなく勉強できる環境があるわけです。近隣五大学の図書館が連携しているので、実体としての蔵書の数もすごいのですが、大学の図書館を通してアクセス可能な5万誌を超える電子ジャーナルは「強力」の一言でした。図書も論文も電子化されていれば、すべて瞬時に無料でダウンロードできます。図書館は書庫である以上に、素早く無限の文献に導いてくれる「どこでもドア」でありました。

変革はシステムの導入で完了するわけではありません。印象的だったのは、スタディ・スキル、つまり大学で必要な勉強法や研究支援をする役割を図書館が積極的に果たしている点です。ライティングのチューターもいれば、研究支援の司書もいます。ペーパー書きは誰にも厄介なもので、論文に詰まった時や英語のチェックを頼みたい時にアポイントメントを取って行くと相談に乗ってくれます。チューターには博士課程や修士課程の学生が登録していて、個人プロフィールの中で得意分野や趣味まで書いているので、自分に向いていそうな人を選びます。僕は文献検索して見つからない時に、よく司書の方に援助を請いに行きましたが、モニター画面を示しながら一緒に見つけてくれるので、なるほどこんな探し方もあるのかと目からウロコの経験を何度もしました。

ネットワーク化は、学生がより主体的に学習や研究に参加し、かつ協働的に結びついていくことを可能にしました。しかし一方で、密度が高く速度の速い教育の裏では、学生が道を見失ったり、より多様な手助けを必要とすることが増えているのも事実です。システムの変更で変革は完了するものではなく、その恩恵とともにもたらされる未知の問題に人々がどう応えようかと考えるところにこそ、変革信仰の真骨頂があるように思います。新しい酒樽の中での発酵がどのようなものなのか、じっくり観察されねばならないし、発酵過程を見つめる杜氏としての教員や図書館も持てる技術を変えていく必要があるでしょう。ネットワークという情報化技術のもたらす旨みをどのように酒造りに取り入れるかは、むしろシステムを使う杜氏達の熟練の技と心意気にあるのかもしれません。

(たまい けん 本学教授)



図書館蔵書点検アルバイト体験記

—書庫に入ることを見つけた学生の得たもの—

事の始まり

「書庫に入るとの作業があると思う」思わず声をあげてはしゃぎそうになった。そこが静かに勉強や読書に励む図書館であることを忘れて。というのは、「書庫」は神秘の領域、あるいはある種の禁域と思っていたから、かもしれない。私はこの話があった時点で、書庫に入った体験が一度もなかった。オープンキャンパスでの図書館ツアーや、ゼミ対象図書館ガイダンスにおいても、書庫の中に入ることを楽しみにする学生は多いようだ。そんなこんなで、私は夏休みの四日間、蔵書点検のアルバイトをすることになった。

四日間の仕事

四日間でアルバイトが携わった仕事は、1. 閲覧室の図書の並び替え、2. バーコードスキャン（対象：閲覧室全体、書庫三階の集密書架の一部）、3. 書庫二階での雑誌の棚の整理の三種類だ。

1は、本の背表紙についている三段の分類番号（検索システムで本を調べ、実際に書架からその本を探し出すときに使うNのついた番号のこと。例：N523-60B）にしたがって、本の並びが正しいかどうか確認する作業。これがなかなか大変な作業だった。分類番号の数字の数が少ないときはまだよい。N932.5-634-1のようになると、さっと見て判断できなかつたり、見逃してはいけないとしっかり目で一冊一冊確認したりするため、自然に確認する速さは遅くなる。職員の方々はもう慣れた様子でさっさと間違ったところに配架されている本を見つけ出しては並べ替えていく。プロの方々の仕事を横目に、遅々としてなかなか速度が上がらない作業の手を叱咤していたものだった。

四日間の大部分を占めるのが2の作業だ。四台（書庫では二台）の読み取り機（ノートパソコンとハンディスキャナー）を用いて作業する。二人一組で、一人はスキャナーを握り、本棚の前へ。もう一人はパソコンの前に座り、準備は完了。スキャナー係がバーコードを読みこんでゆき、十冊ごとにパソコンの前の確認係が「行方不明」や「予約」の本がないか確認してゆく。始め、学生アルバイトの手つきは、ぎこちない様子だったが、作業を進

めるうちに、スキャナーが「ピッ、ピッ」と軽快に連続してバーコードを読み込む音があちこちで響くようになった。まるで「がんばろう」とお互い呼びあうように。



バーコードスキャン作業

アルバイト開始三日目。待ちに待った書庫での作業が始まった。三階の集密書架と二階の雑誌の棚での作業。主に担当した集密書架での作業のことについて記したい。集密書架の棚の一部が、今年の書庫の蔵書点検の該当個所だったようだ。移動書架の大元の電源をいれ、担当の棚のスイッチを押す。と、通路に突っ立っている私たちの前を棚がゆっくりと動いていく。書架に並んでい



書庫二階の雑誌の移動作業

集密書架が動くようす



① ボタンを押すと、



② 電動で書架が開きます。



③ 開いた棚は照明が点灯します。

る本といえば、驚くほど古いものが多かった。一たとえば、乱暴に引っ張り出せば背表紙が外れてしまいそうなほど古いもの、ちょっとしたことではお目にかかれない和綴じの本、平積みで鎮座している、'Encyclopedia Britannica' などの有名どころの百科事典の古い版であった。

アルバイトで得たもの

アルバイトの四日間から得たものは大きかったように思う。卒論などに役立ちそうな本を何冊か見つけることが出来たし、個人の興味から面白そうだと思う本が見つかったのは言うまでもない。この二つよりもっと大事なことがある。一緒にアルバイトとして四日間を過ごした仲間と出会えたことだ。皆、図書館ディープ・ユーザーでアルバイトが終わった今でも、会えば声を掛け合う仲間となった。ただ「書庫に入れる」ことだけに喜んでいた私は、もういない。

五年前にも同じように蔵書点検アルバイトに参加された先輩が、図書館報 25 号に、その体験をつづったもの—「単純作業に耐えられますか？—蔵書点検アルバイト体験記」—を寄稿しておられる。さすが卒論を書く学年、と思わせる文章の中に、こちらをくすつとさせるような表現が多く、楽しく読ませてもらった。学術情報センターの web サイトから、バックナンバーを読むことが出来るそうなので、是非、こちらもご一読いただきたいと思う。

(第 2 部英米学科 3 年)

蔵書点検担当者より

8/16(月)～23(火)の間に蔵書点検の作業を行いました。閉館中は利用者みなさまにご迷惑をおかけしましたが、お蔭をもちまして予定の作業を終えることができました。ご理解とご協力にお礼を申し上げます。

今年のアルバイトのみなさんは、初対面にも関わらず初日から打ち解けた様子で、四日間たつ頃には不思議な

ほど和ができていました。担当者はじめ職員一同微笑ましく眺めておりました。また、一緒にたのしく作業することができたように思います。ありがとうございました。今後も、みなさんが連れ立って図書館に来てくださればうれしく思います。

雑誌が利用できるまで

こたえるひと：古川 友紀子

-- 雑誌はどのようにして図書館に入ってくるのですか？

図書館に入ってくる雑誌には、大きく分けて購入雑誌と寄贈雑誌があります。購入雑誌の場合は、まず雑誌の選定を経て発注することから始まります。1年単位で注文の後、発行され次第納品されます。寄贈雑誌は図書館に到着するところから始まります。

-- 雑誌の選定はいつ頃行っているのですか？

雑誌はタイトルごとに1年単位で購入計画が立てられています。国内雑誌は年度の切り替わる頃に、外国雑誌は年が切り替わる頃に購読契約が更新されるので、それまでに手続きが完了するように、引き続き購読継続するか、新規購読誌を追加するかどうかの判断をしています。

-- 雑誌を一冊ごとに注文することはできないのですか？

基本的には行っていません。まず雑誌は継続的な購読が前提となっているからです。また外国雑誌や一部の学術雑誌は一年を基本的な単位として販売されているということもあります。ちなみに現在外大ではおよそ600誌を購入しています。

-- 雑誌は一日（またはひと月に）何冊くらい届くのですか？

難しい質問ですね。図書館には受入している雑誌だけではなく、受入していない寄贈雑誌も届きます。数えたことがないので正直分かりません。ですが到着したすべての雑誌は、受入しているかどうかのチェックを行っています。大雑把な感触でいうと、国内雑誌は月末月初に、大学が発行する紀要^{*1}は、春と秋に刊行されるものが割と多いので、その頃は山積みで到着することがあります。外国雑誌は入手先の違いや輸送方法（航空便か船便か）の違いなどもあってばらつきがあります。

到着した雑誌は、検品をして、未着や欠号が発生していないかどうかチェックし、必要に応じて欠号の手配を行います。

-- 受入している雑誌はどれくらいあるのですか？

現在継続して受入している雑誌はおよそ1800誌です。

言語別ですと、日本語が約1500誌、英米語が約200誌、中国語が約100誌、ロシア語、イスパニア語、その他言語がそれぞれ約20誌を受入しています。

受入する雑誌は、表紙に受付印を押印、請求記号^{*2}を付与するなどの装備、目録^{*3}の更新を行います。

-- 請求記号にはどんな意味があるのですか？

請求記号は、二つないし三つのブロックで構成されています。一段目はその雑誌の分野を表す分類番号を、二段目はその分類の中の何番目に受入したかを、三段目は必要に応じて巻号や刊年などを記録しています。

P67
85
11

たとえば、『ジェットロ世界貿易投資報告』（2011年版）には、左の請求記号が付与されます。

書庫や閲覧室の白書・年鑑コーナーでは、この請求記号順に雑誌が並んでいて、分野ごとに雑誌が集まるようになっているんですよ。

-- 閲覧室の雑誌コーナーにはとても1800誌も雑誌があるように見えないのですが・・・

おっしゃる通りで残念ながら閲覧室にはそんなに配架されてはいません。すべての雑誌を置くスペースがありませんので、購入雑誌を中心に利用頻度の高いものや各分野で核となる代表的な雑誌を主軸に多少のバックナンバーも含めて配架しています。週刊誌では最新号の月を含めて3ヶ月分、月刊誌はおおむね1年分、年刊誌ですと3-5年分ぐらいが配架されています。配架期間を過ぎた雑誌や配架するスペースのない雑誌は、書庫に納められます。また外大発行の紀要を除いたほとんどの紀要も書庫に置いています。

-- こんなにたくさんある雑誌のなかから、利用したい雑誌を探すにはどうすればいいですか？

具体的に見たい雑誌が決まっていなければ、まず必要なテーマを取り扱った記事や論文が、どの雑誌のどの巻号に収録されているのかを調べましょう。それに

は CiNii Articles や EBSCOhost といったデータベース*4
で検索します。

次に、外大にあるかどうかを図書館のホームページに
ある外大雑誌目録や図書館に設置してある冊子体目録で
確認します。所蔵されていたら、請求記号を控えておい
てください。

比較的新しい雑誌であれば閲覧室にあります。もし
なかった時は、カウンターで書庫出納の申し込みをして
ください。この時に先ほどの請求記号が必要になります。

外大で所蔵していなかった時には、他の図書館から記
事や論文のコピーを取り寄せることができますので、カ
ウンターで相談してみてください。

-- 雑誌を借りることはできますか？

残念ながら、雑誌は借りられません。その代わり、著

(こがわ ゆきこ 図書館職員)

- *1. 大学や研究機関が発行する、その機関の研究成果を掲載した雑誌です。外大では『外大論叢』『研究叢書』『外国学研究』『研究年報』の4つの紀要を発行しています。
- *2. 資料が配置されている場所を示す記号。雑誌には"P"で始まる分類番号がついています。
- *3. 図書館で所蔵している資料を整理して記録したもの。雑誌目録には、「雑誌タイトル」「出版社」「所蔵巻次」「所蔵年次」「継続記号」「請求記号」などが記載されています。
- *4. CiNii Articles では国内で発行された学術論文や、大学などの紀要掲載論文を、EBSCOhost では社会科学・人文科学を中心に海外の学術論文を調べることができます。どちらも、図書館内の専用 PC または図書館のホームページから利用できます。
- *5. 外大図書館にない図書・視聴覚資料は、購入を申し込むことができます。詳しくはカウンターにお問い合わせください。

作権の範囲内で必要な箇所をコピーしていただくことが
できるので、カウンターに申し込んでください。

-- 雑誌の購入リクエストはできますか？

雑誌は図書のような購入希望制度*5はありません。
ですが、購入検討の参考になりますので、カウンターに
てご相談ください。

こんな風にして雑誌は図書館に並び、手に取ってもら
えるようにするのが雑誌担当の仕事です。これを機会に
ぜひ多くの雑誌に手を伸ばしてみてくださいね。

語学学習に利用できる雑誌が増えました

『; puntoycoma (プントイコマ)』(スペイン語)

カウンター付近の専用コーナーに置いてありますの
で、どうぞご利用ください。

バックナンバーは付属 CD と一緒に借りることができ
ます。現在のバックナンバーは No.29 のみですが、他
の号もできるだけ入手する予定です。

『CNN English express』、『English journal』、『英語教
本』、『中国語ジャーナル』、『聴く中国語』は 2011 年発
行分から貸し出ししています。



外大初！

ビブリオバトルを開催しました！



杉山ゼミで外大初のビブリオバトル！

10月21日（金）に杉山ゼミと図書館の共催で外大初のビブリオバトルを開催しました。

ゼミでの予選会を勝ち抜いた5人の学生が、図書館のロビーでそれぞれのおすすめの本の魅力を5分間熱く語りました。

当日は、杉山ゼミに加え、学生・教員・職員など約40人の観衆が集まり、5人の発表に熱心に耳を傾けていました。

ロビーでの発表という外大図書館初の試みでしたが、アンケートでは「楽しかった」「熱い気持ちが伝わった」「紹介された本が読みたくなった」「またやってほしい」などの感想が寄せられました。

ビブリオバトルは、新たな本そして人との出会いの場になったのではないのでしょうか。図書館では、これからも本と人の交流の場を作っていきたいと思います。

ビブリオバトルとは？

ビブリオバトルは、谷口忠大氏（現・立命館大学准教授）によって2007年に考案された新しいスタイルの読書会です。「知的書評合戦」とも呼ばれ、ゲーム感覚で書評を楽しめます。

ルールは

1. おすすめの本を持って集合
2. 一人5分間、本の魅力を紹介
+ 2～3分ディスカッション
3. 一番読みたくなった本に投票し、「チャンプ本」を決定！

現在では全国に広まり、大学や書店などさまざまな場所でビブリオバトルが開催されています。

（飯島）

今回紹介された5冊は（発表順）

- ・アレックス・ロビラ、フェルナンド・トリアス・デ・ベス著『グッドラック』
- ・有川浩著『塩の街』
- ・ウィリアム・パウンドストーン著『ビル・ゲイツの面接試験：富士山をどう動かしますか？』
- ・金正美著『しがまって溶けた：詩人桜井哲夫との歳月』
- ・百田尚樹著『永遠の0(ゼロ)』

初代チャンプ本に選ばれたのは、『塩の街』でした！

本と人に出会う秋の図書館イベント その2 選書ツアーに行ってきました

11/9(水)、三宮センター街にあるジュンク堂書店で第1回選書ツアーを行いました。事前に申込をした11人の参加者が2時間かけて各フロアを廻り、約160冊を選びました。選ばれた図書は、日本の文芸のほか、経済、科学、美術など予想以上にバラエティに富んだものとなりました。選書ツアーは外大図書館でははじめての試みでしたが、参加されたみなさんのご協力のおかげで、時間・予算ともほぼ予定どおりに無事に選定を終えることができました。

この選書ツアーで選ばれた図書は12月上旬から図書館入口の本棚に展示する予定です。「ほかの外大生にも読んでほしい!」と選ばれた図書が、選んだ人のおすすめコメントつきで並びます。どうぞお楽しみに。

(橋本・福井)



図書館日誌 2011年7月～11月

7.1 ゼミガイダンス実施

7月 高校見学受入7回

8.7/21 オープンキャンパス(外国語図書展示、
司書による書庫見学ツアー)

8.12 こども参観日

8.16-23 蔵書点検

8月 高校見学受入5回

10.3-11.25 展示「司書のおすすめD」第14回

10.14 ゼミガイダンス実施

10.21 ビブリオバトル開催

10.31-12.7 特別展示「ビブリオバトル」

10月 高校見学受入2回

11.2 日本語プログラム図書館オリエンテーション実施

11.7-12.7 特別展示「アルゼンチン文学の100年」

11.9 選書ツアー

11.11 トライやるウィーク(2校4名受け入れ)

11月 高校見学受入2回

AD ALTIORA SEMPER 神戸市外国語大学学術情報センターだより 第35号 ISSN 0919-2336

「AD ALTIORA SEMPER」とはラテン語で「常により高きを求めて」という意味です

編集・発行：神戸市外国語大学学術情報センター

〒651-2187 神戸市西区学園東町9丁目1

TEL：078-794-8151 / FAX：078-797-2257

URL：<http://www.kobe-cufs.ac.jp/library/>

2011年11月30日発行 発行責任者：センター長 益岡隆志